日本共産党　和歌山市会議員

森下さち子ニュース

2013年【３月号】　和歌山市鳴神1145の６　TEL（474）6556
市議員団ホームページ http://jcpwkym.sakura.ne.jp/　TEL（435）1113

今年の梅は寒さで開花がかなり遅れたとか。そんな寒さもすっかり緩み始め、いよいよ春がやってきます。沈丁花のつぼみも膨らみ、桜前線の頼りが待ち遠しい今日この頃になりました。このニュースが届く頃にはさらに春めいていることでしょう。

2月定例議会を迎え2012年度最終補正予算の審議を始め、一般質問や2013年度予算の審議も始まっています。昨年末の総選挙で民主党政権から自・公政権に代わり、法律や予算の中身も伴って変わります。そのことが市の予算にも大きく関わることから、市民生活に目を向け配慮していく必要があります。

《2月定例市議会》一般質問で「社会保障制度」「就学援助制度」について取り上げました。

生活保護基準を切り下げないで！

政府は今年の８月に生活保護基準の切り下げを実施しようとしています。その計り知れない影響を考え、国に中止をするよう求めるべきだと市長に質しました。

生活保護基準は様々な福祉制度や課税・非課税の基準の大本ともなっているため、切り下げられれば影響を受けるところは多岐にわたります。

例えば、中国残留邦人等に対する支援給付、保育所の保育料、病児・病後児保育の利用料、障害児入所支援の措置、養護老人ホームへの入所措置、自立支援医療などは福祉制度として重要なものです。これまで受けていた人が受けられなくなる恐れがあります。生活保護を受けている人だけの問題ではなく、福祉制度を後退させ、広がっている貧困と格差をさらに助長させるものです。

国へ中止を求め、意見を挙げるよう市長に求めました。

市長は今すぐに中止を求めるつもりはないが、他の制度へ影響を及ぼしひいては市に負担増があるようなら意見を挙げると答えました。

就学援助制度の充実を早急に！

先の９月議会では、就学援助制度の支給単価が同じ中核市でありながら、和歌山市がかなり低い水準にあることから、早急に改めるよう求めました。

市長も教育長も低いことを認め改善すると答えていたにもかかわらず、新年度予算には全く反映されていませんでした。

就学援助制度は昨今の経済的事情の悪化から利用数が年々増えています。経済的な理由で学ぶ機会が奪われることのないように市は充実させていく責任があります。

直ちに改善するよう求めました。市長、教育長ともに新年度は実施できなかったが、必要性は感じており改善に努力すると答えました。

日本共産党　参院候補

原　やすひさです

本土初のオスプレイの低空飛行訓練を急きょ「オレンジルート」に変更し、３月６日～８日に実施するとの情報が前日の５日に県、関係自治体に入った。オスプレイは世界中で事故を起こしている欠陥機だと、これはもう常識になっている。

７日、僕は奈良県や兵庫県の参院予定候補と一緒に近畿防衛局に行き抗議もし、訓練撤回を申し入れた。驚いたことに、防衛局も何も知らされておらず、訓練の確認のため２人の職員を印南町の現場に行かせたとのことだった。早い話、どこを、どんなに飛ぶのも米軍の自由、野放しだということだ。「ちょっと待ってくれよ。民間機だって飛んでいるし、緊急搬送のドクターヘリだって飛んでいるのに」。「こいからもやるつもりかよ」と、日高川町や印南町では怒りと不安が広がっている。

８日、訓練ルートま下の印南町狼煙山（のろしやま）に上ってみた。上るやいなや、ＦＡ１８戦闘機（艦載機）が上空に飛来した。「本土の沖縄化」がさらに進もうとしている。

こんにちは！藤井健太郎です

（ふじいけんたろう）

季節は春。桜の開花を目の前に気分も晴れてきますが、政治の先行きを考えると、そうウキウキしていられません。

丸2年目を迎えた東日本大震災と福島原発事故、被災者の生活となりわいの再建は待ったなしです。原発に頼らないエネルギー政策の確立も急がねばなりません。しかし、安倍政権は原発再稼働、消費税引き上げと社会保障改悪、TPP交渉への参加、米軍基地のたらいまわし、その果てに憲法変えて国防軍づくりと、一気呵成に突き進もうとしています。国民を一体どこに連れて行こうとしているのか。誰のための政治をしようというのか。それを考えると、むかっ腹が立ってきて、仕方がありません。

前県会議員
ふじい健太郎

福島を忘れない！原発ゼロ 和歌山3・10フェスティバル

←和歌山城砂の丸で行われた集会とアピールパレードに参加した市議団のメンバー（右から2人目が森下）

参院候補
原やすひさ さんと
↓

原やすひさのブログより

きょう和歌山城で、原発ゼロを求めるフェスティバルがあった。

プルトニュウムをはじめ、大量の放射性物質が拡散する世界最悪の事故を起こしながら、「世界最高水準の安全」などというまったくの自己矛盾をかかえる安倍・自民党政治。

いまだに15万人をこえる人々が、先の見えない避難生活をおくっている。この苦しみにこころを寄せながら、安全な原発などありえないんだとのたたかいをさらに広げる決意の日にもなった。

スリーマイル、チェルノブイリ、フクシマと3度の原子力大災害を経験し、人類が原発を乗りこえゼロにする日が来ることを疑わないが、いまこそ日本が愚かな原発固執をすて、世界の中で原発ゼロをリードすべきだと思う。（2013.3.10）

ブログ「紀伊半島　原やすひさ」をご覧下さい。
http://kiihanto.exblog.jp/

《教育委員会への申し入れ》小・中学校の35人学級のため、教職員増員を県に要望されたい

2月25日、原教育長に小・中学校のすべての学年で35人学級を実現するための教職員増員を求めました。

昨年12月の総選挙で政権が変わり、当初予定されていた35人学級実施に必要な18000人の教職員増員が中止となり、1800人しか増えません。このため、学年が上がるだけで学級定員が増える学校があります。教員の負担が増えることはもちろん、子どもたちのストレスも増えることになります。県に加配を含めた増員を要望すると同時に市も独自の教員配置に努めて欲しいと求めました。

原教育長は「県に要望して教員の確保に努めたい」と答えました。

『市民法律講座』

主催　ゆら・山崎法律事務所
第7回
「夫婦・親子に関する法律知識」
4月19日(金)18:30〜
新橋ビル8F
問い合わせ433・5551

早いもので、東日本大震災から2年を迎えました。私にとってはいつもの2年でも、被災された方、家族や友人、知人を亡くされた方にとっては永遠に進まない時間なのかもしれません。現地では今なお大きな爪痕が残り、復興も進んでいないとの声も聞きます。

3月10日は西の丸広場で『福島を忘れない、原発ゼロ3・10フェスティバル』が開かれ、福島から和歌山へ避難してこられた2名の方の発言を聞くことが出来ました。地震も原発事故も決して他人事ではないと強く思うと同時に一人一人が考え、行動することの積み重ねで安心・安全を作り出していくことの必要性も感じた次第です。私も微力ながら力を尽くす所存です。